

夏の植生調査 H22.6.26(土) 主催:西中国山地自然史研究会

再生工事直後の状態を調べるための植生調査を行いました。
調査の結果、多くの調査区で見られたのがミゾソバとイでした。また、アメリカセンダングサやフランスギクなど、外来種が多く生育する調査区もありました。一方で、外来種がほとんど見られない場所もあり、工事直後にも多様な植物群落が見られることが分かりました。(西中国山地自然史研究会報告)



夏のいきもの観察会 H22.7.11(日) 主催:西中国山地自然史研究会

今回の観察会の講師は、植物担当の和田先生と昆虫担当の岩見先生です。ハンカイソウやチダケサシ、トモエソウ、ホソバヨツバムグラ、コバギボウシ、オカトラノオ、ヒヨドリバナ、オトギリソウ、など、花を咲かせた植物をたくさん見ることができました。また、雨の中でも飛んでいたルリシジミやアサヒナカワトンボの姿も見ることができました。

数時間歩いてみただけでも湿地生の植物や動物を確認することができ、霧ヶ谷湿原が工事によって湿原化し、もとの湿原の姿を取り戻しているんだなあ実感し、とてもうれしかったです。(西中国山地自然史研究会報告)



写真でみる霧ヶ谷湿原



写真提供:宗岡 泰昭さん(八幡湿原自然再生協議会委員)

八幡湿原

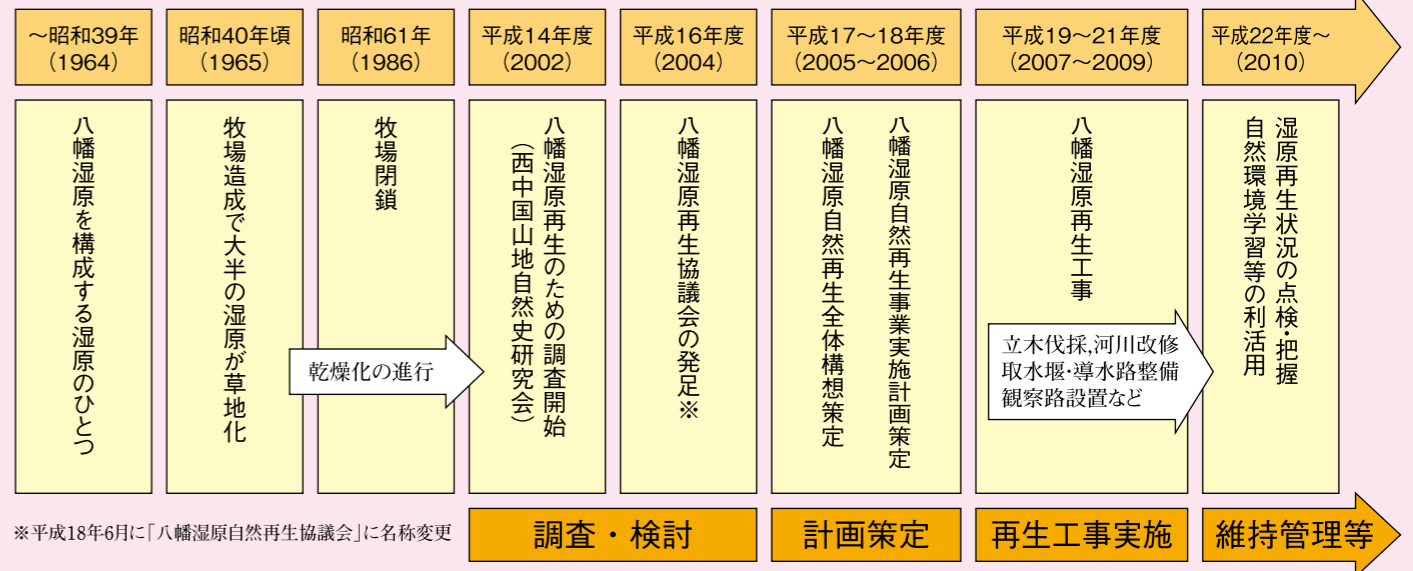
自然再生事業ニュースレター No.1

八幡湿原自然再生事業
発行日:平成22年9月
八幡湿原自然再生協議会事務局

八幡湿原自然再生事業では、過去に失われた湿原(霧ヶ谷湿原)を再生する事業を行っています。
ニュースレターNo.1では、今年3月に完了した湿原再生工事の概要と、最近の霧ヶ谷湿原の活動を報告します!

これまでの取組経過

これまでの八幡湿原自然再生の取組は次表のとおりです。



八幡湿原再生工事の内容

工事の方針

水文環境の改善

明渠及び暗渠により排水されている水を事業地内に止め、地下水位を上昇させることにより、事業地全体を湿潤化させる。

湿原植生への遷移の誘導

水文環境の整備と現存植生を整理することにより、湿原植生への遷移を図る。

植生については、外来種を排除するとともに人為的な持ち込みは行わず、環境整備により遷移を誘導する。

また、現存する湿原については可能な限り保全する。



年度別実績一覧表

工種	H19	H20	H21	計	
河川改修	流路工撤去・埋戻し	272.0m	200.0m	40.0m	512.0m
	取水堰工	3.0基	—	—	3.0基
	帯工	3.0基	7.0基	—	10.0基
	落差工	7.0基	9.0基	1.0基	17.0基
導水路の整備	床固工	—	—	1.0基	1.0基
	幹線導水路(素掘り)	320.0m	141.5m	—	461.5m
	補助導水路(素掘り)	1384.0m	844.0m	—	2228.0m
既設水路撤去	明渠埋戻し	437.0m	148.0m	—	585.0m
	管渠撤去	10.0m	9.7m	4.8m	24.5m
町道周辺水路の改良	側溝撤去	—	141.0m	—	141.0m
	町道側溝等改良	—	23.0箇所	—	23.0箇所
立木等の伐採	観察路	—	—	753.7m	753.7m
	木道、木橋等	—	—	—	—
標識	伐採	4.0ha	1.8ha	—	5.8ha
	除伐	6.0ha	—	—	6.0ha
標識	解説板、指導標	—	—	5.0基	5.0基

〜霧ヶ谷湿原活動レポート〜

🌀 コンクリート三面張り水路の改修・自然河川の整備



工事前



工事後

事業地の中央河川はコンクリート三面張り水路となっていました。湿原の水位をあげるために、この水路を改修することとしました。環境学習やレクリエーションの場としても活用できるようにするため、できる限り自然河川に近い状態に改修しています。

※写真は同一箇所ではありません。



落差工

中央河川に帯工や落差工を約20m間隔で設置し、河川の縦断勾配を緩和するとともに、土砂の流出を抑止することとしました。

🌀 取水堰・導水路の整備



取水堰



導水路

中央河川から事業地内に導水するため、取水堰を3箇所設置することとしました。取水堰には、帯工や落差工と同じく縦断勾配を緩和し、縦侵食を防止する機能や事業地から流れ出る土砂を貯める機能も持たせています。

ポイント

霧ヶ谷湿原の湿原化に必要な条件とは…
とにかく水を廻すこと

導水路は、乾燥の進んだ区域に水路の水を誘導し、湿潤化させることを目的としています。構造は素掘りとし、水平に設置しました。水は上流から常に供給されているため、無理に勾配をつけなくても自然と導水路から溢れることになります。

🌀 観察路・解説板などの設置



観察路の設置

自然再生基本方針の趣旨に基づき、本事業地を自然環境学習等の場として積極的に利活用するために、観察路を設置しました。離合・観察箇所を一定間隔ごとに設置し、車椅子対応の木道も設置しました。



解説板の設置

湿原再生事業の目的や趣旨等を解説した解説板を3基設置しました。

側溝等の改良

カスミサンショウウオなどの小動物の移動に配慮した構造とするため、事業区域内の側溝及び集水枠を部分的に改良しました。



🌀 オープニングイベント H22.4.24(土) 主催:八幡地区区長会,北広島町観光協会芸北支部,北広島町

湿原再生工事が完了し、湿原の観察や利用ができるようになりましたので、完成を記念してオープニングイベントが開催されました。イベントの直前に急に雨が降り始め、開催が心配されましたが、イベントが始まるとともに雨もやみました。北広島町長や広島県環境部長など様々な関係者が出席され、盛大な式となりました！

テープカット後、早速、参加者は木道を歩き、熱心に湿原を観察されていました。(協議会事務局報告)



記念撮影カシャ!

🌀 両生類の産卵調査 H22.4.29(祝) 主催:西中国山地自然史研究会

カスミサンショウウオをはじめとした両生類の産卵調査を行いました。

3歳や小学校の子どもも一緒に参加し、GPSで場所をおとす「ポイント屋」さん、数や種類を確認して報告する「報告係」さん、データを書き込む「記入係」さんの見事な連携プレーで調査は進みました。カスミサンショウウオ、ヤマアカガエル、アマガエルなどの両生類以外にも、カナヘビ・シマヘビ・オオコオイムシ・トビケラ・ヤゴ・オオルリ・オオタカなど色々な種類のいきものを見ることができました。(西中国山地自然史研究会報告)



カスミサンショウウオの卵

🌀 山の日自然観察会 H22.6.6(日) 主催:ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会等

八幡高原をメイン会場に、第9回ひろしま「山の日」県民の集いが開催され、霧ヶ谷湿原では自然観察会が開催されました。参加者は、八幡高原で進む自然再生事業の経過や目的、湿原の植物、湿原を取り巻く環境、自然再生事業の概況などに興味深く耳を傾け、質問もずいぶんあったとのこと。(ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会報告)



午前の部は、芸北トレッキングガイドが湿原を案内しました。新緑がきれいである皆さん気持ちよさそうです。



英語で解説



午後は八幡湿原自然再生協議会の中越会長がインタプリターとして、湿原を案内されました。広島大学の留学生も参加していたため、英語も交えて解説されました。大変有意義な観察会でした。